

# 宇都宮の「都心部まちづくり」

~みんなが目指す都心部のビジョンとみんなで取り組むまちづくり~

発 行 元 宇都宮市 都市整備部 NCC推進課 問合せ先 〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL:028-632-2564

持続可能なまちづくりの基盤 「NCC」

宇都宮市

第 1 章

# 背景と目的等

CHAPTER

本市では、各地域のコンパクトな拠点が公共交通でつながることで、持続的に発展することができる「ネットワークコンパクトシティ(NCC)」の形成に取り組んでおり、それを土台として、人口減少・超高齢社会においても、子どもから高齢者まで誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち、そして、人や企業から選ばれ、100年先も繁栄し続けていくまち「スーパースマートシティ」の実現を目指しています。

# スーパースマートシティの 実現を目指して。

## 都心部のまちづくりビジョン

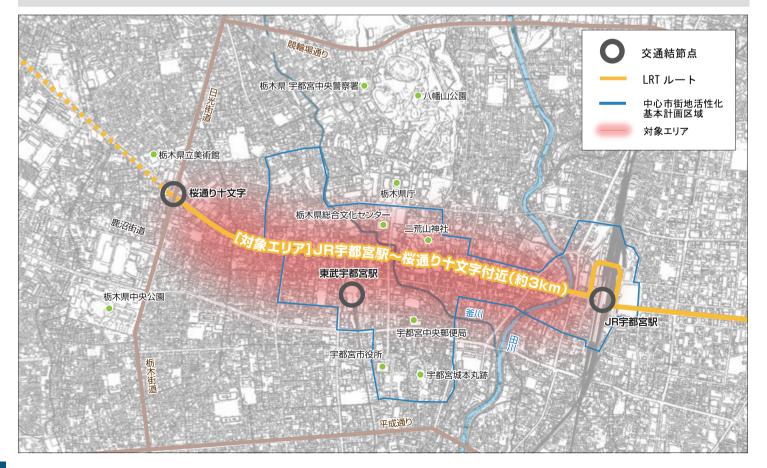
NCCの形成において、都心部は都市全体の発展をけん引する都市拠点であり、「宇都宮の顔」となるエリアとして、都市の様々な機能の集積などによるにぎわいや交流の促進など、魅力あるまちづくりを推進してきました。

そうした中、NCCにおける総合的な公共交通ネットワークの構築に向けた都心部へのLRT導入やバス再編などの公共交通を充実していくことは、市民・来訪者など、誰もが快適に移動できるネットワークの形成に加え、人や自動車の流れを変化させ、都心部の魅力やポテンシャルを大きく向上させる機会となることから、NCCの形成をより一層強化していくため、将来を見据えた都心部のまちづくりに官民が協働して取り組むことが必要です。

こうしたことから、本市が目指すスーパースマートシティの土台となるNCC形成をより一層推進するため、LRTを基軸とした公共交通と一体となった魅力ある都心部の目指すまちの姿を描き、それに向かって市民・事業者・行政等が協働して取り組むべき都心部まちづくりのビジョンを策定しました。

現在 2022年 目標年次 2030年頃 SSCなど中長期的かつ 持続的なまちづくりの観点から、 概ね10年先の2030年頃を 日標実現に目指します。

## 対象エリア



## 「スーパースマートシティ」ってどんなまち?

持続可能なまちの構造であるNCCを土台に、「地域共生社会」、「地域経済循環社会」、「脱炭素社会」の3つの社会が、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」を定義しています。



## NCCの形成ってどんなまちづくり?

今あるまちを,人口減少や超高齢社会といった社会の変化に合わせ,みんなが便利で快適に暮らせ,持続的に発展できるまちを目指した,コンパクトなまちの形成(拠点化)と公共交通の充実(ネットワーク化)に取り組むまちづくりです。

#### 拠点化の促進

街なかへ高度な医療や百貨店,大学などの多様で魅力的な都市機能を誘導し充実させるとともに,駅周辺などへ,市民の日常生活を支える医療・福祉,商業などの都市機能を誘導します。併せて,街なかや駅周辺の他,LRT沿線や幹線バス路線の沿線などへ,居住選択に応じて,緩やかに居住を誘導します。

#### ネットワーク化の促進

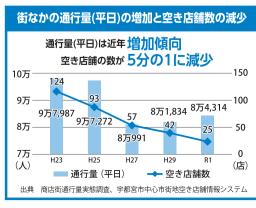
LRTの整備と合わせてバスの早朝・深夜帯などの運行時間の拡大や、これまで公共交通が通っていなかった交通空白地域などへ路線を拡大します。

また, 乗り継ぎしやすい運行ダイヤを編成することで, 利便性の高いバスネットワークを再編します。

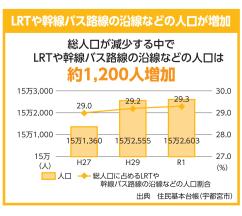
鉄道・LRTから目的までの移動手段として便利なシェア サイクルなどを導入します。

出典:第3次宇都宮市都市計画マスタープランより

## まちづくりの効果(例)







2

第 2 章

# 目指すまちの姿

CHAPTER 2

「都心部まちづくりビジョン」は、本市都心部のより一層の魅力と活力あるまちづくりを進めるための羅針盤となるものです。その将来像は、中心市街地の現状・課題を踏まえ、JR 宇都宮駅西側へのLRT導入等を見据えた都心部の魅力あるまちの状態を表現しまし



# うごくつながる心躍るみんなで創る宮の街なか。

#### CONCEPT

## うごく つながる 心躍る みんなで創る 宮の街なか

「うごく」には、LRTが走り、ICT技術などを活用しながら多様な活動が行われ、新たな産業が興り、働く人・住む人が増えるという意味を込めています。

「つながる」には、人と人が結び付き、多様な交流が生まれ、ダイバーシティな(多様性のある)まちができるとともに、様々な情報が収集・発信され、「人・情報」がつながる、また、LRTを基軸とした公共交通と一体となったまちづくりにより、JR宇都宮駅の東側と西側がつながる、都心部と周辺地域がつながる、宇都宮と他の都市とがつながるという意味を込めています。

「心躍る」には、人を惹きつける魅力的な空間が形成され、街なかを訪れ、楽しむ人が増えるという意味を込めています。

「みんなで創る」には、官民の様々な 団体・個人が主体的に多彩な取組を連携・補完し合いながら進めることで、未 来の街なかを築き上げていくという意味を込めています。



#### \*【参考】「交诵未来都市うつのみや」の姿イメージ

中心市街地における10年後の都市交通の姿について、誰もが移動しやすい階層性のある公共交通ネットワークの形成や、トランジットセンターの整備による公共交通や自動車、自転車などの円滑な乗り換え環境の確保、バリアフリー化された安全な歩行空間や自転車走行空間の整備などによって、子供から高齢者まで誰もが安心して移動ができるようになるイメージを描いています。

## 都心部まちづくりの方針

全体方針

長い歴史や文化,自然など地域資源を活かした

「ストーリー性のあるまちづくり」

宇都宮の顔である都心部は、1200年を超える歴史を持つ二荒山神社をはじめとした歴史資源や、オリオン通りなどの商店街、田川・釜川などの自然資源、JRと東武の鉄道駅、さらには様々な祭りやイベントなどの行事とそれを担う人が総体となって「宇都宮らしさ」を形成していることから、その宇都宮らしさを受け継ぎ、より高めるため、大通り沿線の交通結節点やLRT停留場周辺など各エリアで地域資源を活かしたストーリー性のあるまちづくり\*を推進します。

#### \*ストーリー性のあるまちづくりについて

本ビジョンでは、こうした多様な歴史や資源、特色を活かした、各エリアの物語性を持ったまちづくりが、「うごく つながる 心躍る みんなで創る 宮の街なか」の将来像(まちづくりのテーマ)の下、LRTでつながる沿線全体で一体となって展開されていくことを「ストーリー性のあるまちづくり」と表現している。



将来像の実現に向けて、都心部まちづくりの「全体方針」のもと、ICT等の新技術の進展や「ポストコロナ時代」などを見据えた新しいまちづくりの要請に対応しながら「3つの方針(視点)」を持って、都心部の魅力あるまちづくりを進めます。

# **①**ウォーカブルなまちづくり

街なかを、安全・安心で、人中心の居心地が良く歩きたくなる、ゆとりある都市空間へと転換することで、まちの価値の向上やエリア全体への波及効果にもつながるウォーカブルなまちづくりを推進します。



## ②ICTなど先進技術の活用や 脱炭素化を推進する まちづくり

都市や地域が抱える様々な課題を解決するため、ICTなどの先進技術の活用や脱炭素化を推進することにより、都市機能やサービスの効率化・高度化や、生活の利便性・快適性の向上など安全・安心に暮らせるまちづくりを推進します。



公共交通を使ったり、地いても衝なかの

買い物や含事などを楽しめたら思いな

#### **③**多様な主体が連携した にぎわいまちづくり (民間と行政の役割分担など)

多様なまちづくり関係者が適切な役割 分担のもと、主体的かつ相互に密接に 連携しながら、LRT等を活かしたまち づくりに取り組むことで、更なるにぎわ い創出や都市の魅力向上を官民協働 で促進します。





シェアサイクルなどの

ハウでも利用できるシェアサイタルデ 電影ホークボードログを導入・出来します。

導入・輸充





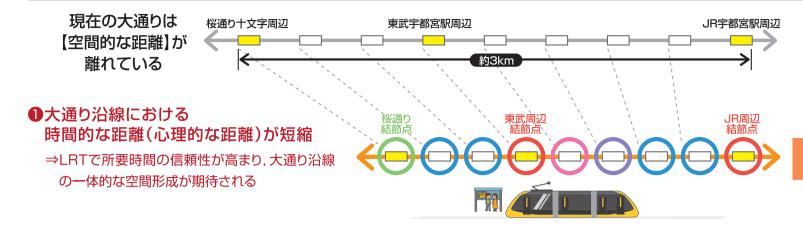
バス路線を新設・拡撃し

中心即を得収するパスや部門を選り、 塩なかやな外交達が体などにかさやすし いちょう選りを実行するパスを制度・拡発します。 
・ 株舗な多行立部を整備します。

歩きやすいあれ変間の幕側

駅から取引売に自転車で

## 目指すまちづくりのイメージ



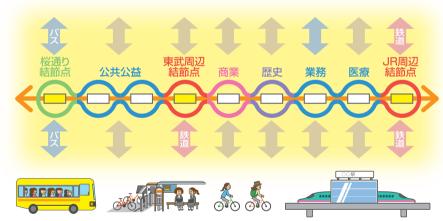
#### ❷多様性のある一体的空間の形成

- ⇒沿線に訪れる人々の多様なニーズに応えるまち の機能を充実
- ⇒居心地が良く快適な歩行空間形成など,人の回遊やにぎわいを波及させ,都心部エリア全体の魅力と価値を向上



## ❸都心部へのアクセス向上

⇒街なかの回遊性を高めるとともに,周辺地域から も充実した多様なまちの機能・魅力を享受でき る環境づくりを進めることで,都市全体の魅力を 向上



## 全線新設のLRT整備は国内初

## LRTを導入すると・・・

#### 【生活やまちの変化イメージ】

- ●子どもから若い人, お年寄り, 障がいのある人まで, 誰もが自由に安心して 移動できる
- ●様々な人が集まりやすく、来訪者にとって分かりやすいまちに転換していく



併せて

## LRT+まちづくり\*をみんなで進めると・・・

\*多様なまちの機能の誘導、オープンスペースの確保など

### 【生活やまちの変化イメージ】

- ●多様なまちの機能が充足したLRT沿線全体で, 訪れる人々の多様なニーズ(買い物, 食事, オフィス, 娯楽, 通院等)が満たされる
- ●街なかの回遊性の向上や居心地が良く歩きたくなるまちづくりにより、LRT治線で生まれたにぎわいや人の交流が、オリオン通り等の商店街や周辺に波及し、相乗効果でエリア全体の活性化や魅力の向上が図られるとともに、歩いて健康に暮らせるまちに転換していく



さらに

## 交通とまちづくりを融合することで・・・

## 【生活やまちの変化イメージ】

- ●LRTを基軸とした公共交通と一体となったまちづくり\*を進めることで、街なかを訪れ、楽しむ人が更に増える
- ●市内外の多くの人が行き交い、更に新たなにぎわい・交流が生まれる

P

\*公共交通と一体となったまちづくりについて LRT沿線を軸に、街なかを安全・安心で居心地が良く、人中心の都市空間に転換するとともに、鉄道やLRT、バス、地域内交通などの多様な交通手段で、街なかの回遊性や周辺地域から都心部へのアクセス性を向上することにより、都心部まちづくりの効果を都市全体へ波及させていく公共交通ネットワークの構築と一体となって進めるまちづくり

## 全国の新しいモデルとなる交通未来都市の実現



5

## エリア別の将来像

JR宇都宮駅西側は、地域の成り立ちに応じて、大通り沿線が商店街や繁華街、オフィス街、文教施設の集積地区など多様な特色を 特色や地域資源, 土地利用としてのまとまり等を踏まえ, 大通りを交差する幹線道路等で区分した, 3つの「沿線エリア」を設定。また, 更に多くの人が行き交う交通結節点となる ①桜通り十文字、②東武宇都宮駅、③JR宇都宮駅の各周辺と二荒山神社周辺のシンボル 空間に「拠点エリア」を設定。

有していることから、それらの 沿線の中でも、LRT等により、



エリア別の将来像を整理し、各エリアが持つ個性 や魅力,資源を生かしたストーリー性のあるまち づくりを進め、それらをLRTでつなげることで、都 心部全体の魅力あるまちの実現につなげていく。



## 桜通り十文字周辺 【拠点エリアの将来像】

多くの若者や学生などが行き交う 新たな文化が生まれるまち



# 東武宇都宮駅周辺

【拠点エリアの将来像】

中心商業地の玄関口でありLRTと鉄 道の結節点として,駅と商店街が一体 となったにぎわい・交流が生まれるまち



## 二荒山神社周辺 【拠点エリアの将来像】

二荒山神社門前の歴史・文化が薫る,居心 地の良い, にぎわい・おもてなしが感じら れる、都心部のまちづくりを象徴するまち



## JR宇都宮駅西口周辺 【拠点エリアの将来像】

50万都市"県都"の玄関口として, 都市と水・緑が調和した, にぎわい・ 豊かさ・風格が感じられるまち













桜通り十文字周辺≈東武宇都宮駅周辺 (桜・小幡・材木町地区)

文教施設が集積し都心部に近い街なか居住地域として便利で 暮らしやすいまち

東武宇都宮駅周辺~三荒山神社周辺 (伝馬町·池上町·馬場地区)

歴史・文化から商店街・歓楽街などの資源を生かして 都市のにぎわいや多様性が感じられるまち





三荒山神社周辺~JR 宇都宮駅西口周辺 (大工町・宮の橋地区)

駅から街なかへ来訪者を誘う開放的な街並みと高機能オフィスや病院,大 学等が建並ぶ風格ある景観が調和した近未来を想起させるスマートなまち

次ページでエリアの成り立ちや実現に向けた方針を紹介→

## エリア別のまちづくりの方針

# 拠点エリア エリアの特性 成り立ち エリアの 多くの若者や学生などが行き交う新たな文化が 将来像 目指すまちの 状態 交通結節 機能 自転車×LRT

# 桜通り十文字周辺

#### ■教育・文化、公共公益機能が集積する居住地区

- ●旧陸軍(第14 師団)の跡地に文教施設等が集積
- ●桜通りは軍用道路(軍道)として整備。桜の地名は軍道沿 いに植えられた桜並木に由来
- ●現在, 桜通り十文字は郊外からのバス路線が集中

LRT⇔郊外からのバス, 周辺施設への移動やサイクリ ングなどに利用する自転車の結節拠点の役割を担い、教

生まれるエリア

育・公共施設の集積から生まれる若者や学生などの交流 により新たな文化が創出されている。

#### 路線バス×LRT

近隣自治体(鹿沼市・ 日光市等)や市内郊外 (南・北・西方面)との結 節機能の充実



富山ライトレール(富山市)

#### 東武鉄道×LRT

近隣自治体(千牛町・栃木市等)との結節機能の充実

■鉄道駅と商店街が一体となった中心商業地区

地。現在、百貨店や商店街を核に商業集積

に由来し今も交通結節点

回遊空間が創出されている。

●昭和初期の東武宇都宮線(駅)開業をきっかけに商店が立

●東武馬車道通りは昭和初期,多くの馬車が行き交ったこと

中心商業地の玄関口でありLRTと鉄道の結節点として、駅

東武宇都宮駅・東武馬車道通り・オリオン通り・ユニオン通

りが連続した歩行空間でつながり、宇都宮らしい個性的な店

舗やにぎわいある魅力的な空間にあふれる、歩いて楽しい

と商店街が一体となったにぎわい・交流が生まれるエリア

東武宇都宮駅周辺

#### 路線バス×LRT

近隣自治体(下野市等)や市内郊外(南・東方面)との結節 機能の充実

多様な目的地や界隈性を有する本エリア内

を回遊する新たなモビリティ(シェアサイクル

や電動キックボード、EVバス、次世代モビリ

# 二荒山神社周辺

#### ■宇都宮発祥の歴史が薫るシンボル空間

- ●宇都宮発祥の地・二荒山神社の門前町、宇都宮城の城下町 として発展
- ●明治から昭和30年代に仲見世。全盛期は「宇都宮の浅草」 と呼ばれるほどで今も賑わいの中心

二荒山神社門前の歴史・文化が薫る、居心地の良い、 にぎわい・おもてなしが感じられる、都心部のまちづくり を象徴するエリア

バンバ広場、釜川プロムナードなど周辺の多様な公共空間 が一体となり、かつての仲見世の復活を想起させるにぎわ い・交流空間が創出されている。



バンバ広場

自動運転バス



WHILL(ウィル)

## JR宇都宮駅西口周辺

#### ■北関東の中核都市・宇都宮の玄関口

- ●県都の玄関口として明治期の宇都宮停車場開業や昭和57年の東 北新幹線開業等を経て発展
- ●現在も, 広域交通の要衝であるJR宇都宮駅を中心に通勤・通学な ど多くの人が行き交う街の中心

50万都市"県都"の玄関口として、都市と水・緑が調和した、 にぎわい・豊かさ・風格が感じられるエリア

JR宇都宮駅・LRT・大通り・田川の親水空間等が一体的な空間とし て感じられる風格ある玄関口づくりが進み、ヒト・モノ・情報が集まる 広域的な交流拠点が形成されている。

#### **JR×LRT**

首都圏や東北との広域交通 の結節拠点の形成

三宮駅(神戸市



#### 路線バス×LRT

近隣自治体(鹿沼市・日光市・下野市等)や市内郊外(各方面)との 交通の結節拠点の形成

#### 広域的な交流拠点(商業,文化・情報等)

広域的な交流拠点として、商業、文化・情報等の多様なまちの機能

集積と,都市ブランドのシン ボルとなる居心地の良い都 市空間や田川沿いの憩い・ 潤いが感じられる親水空間 の形成



JR宇都宮駅 駅東口広場(宇都宮市)

の多様な機能が集積する地区

沿線日

居住者や周辺施設の 利用者,日光方面等へ向 かうサイクリストなど自 転車との結節機能の充実

乗り継ぎ利用の拠点(生活利便施設など)

バス⇔LRTなどの結節点として乗換時に日常的に利用 する生活利便施設などを立地

若者・学生などが集い・憩える交流空間づくり

周辺の教育・文化機能の集積を活かし、若者や学生など が行き交う交流空間の形成

## にぎわい・回遊の拠点(商業)

ティ等)との結節機能の充実

新たなモビリティ×LRT

東武百貨店・オリオン通り・ユニ オン通り・東武馬車道通り・LRT停 留場などが一体となったにぎわい 空間の形成



電動キックボード

東武宇都宮駅周辺~二荒山神社周辺 (伝馬町・池上町・馬場地区)

トレック(クアラルンプール)

#### 憩い・交流の拠点(商業,オープンスペース)

二荒山神社,バンバ広場,釜川プロムナード等の歴史・自然 景観が織り成す居心地の良い空間の形成

神社門前の「バンバの仲見世」から受け継がれる本市商業 の中心地としてのにぎわい.交流空間の形成

#### 拠点エリア

エリアの特性・

成り立ち

エリアの

将来像

導入機能·

空間づくり

#### **桜通り十文字周辺~東武宇都宮駅周辺** 沿線❶

# (桜・小幡・材木町地区)

- ■中高層の住宅を主体とした街なか居住地区
- ●旧武家屋敷町を中心に閑静な住宅地を形成。小幡地区 は武士階級(御旗組)が住んでいたことに由来
- ●明治から昭和初期に大谷地区と材木町(裁判所前)を結 ぶ人車鉄道(軌道)が運行。現在はバス路線が充実

街なか居住地域として便利で暮らしやすいエリア

### ■都市の多様性・界隈性と歴史・にぎわいが調和する商業地区

- ●昭和以降,繁華街の中心は,東武宇都宮駅周辺の松ヶ峰から 泉町·本町に移り,現在はアーケード商店街·オリオン通りを 中心に県内最大の繁華街を形成

●日光街道・奥州街道の追分(分岐点)にあたる伝馬町・池上町界 隈は、宇都宮宿の宿駅(宿場町)として多くの人馬でにぎわい

### 歴史・文化から商店街・歓楽街などの資源を活かして都市の にぎわいや多様性が感じられるエリア

文教エリアにふさわしい落ち着いた街並みが形成・保

周辺エリアへと波及している。 回遊が生まれている。

次世代モビリティが地区内を運行し、都市が備える多様性や 界隈性、奥行きの魅力と調和した

大通りを中心に人中心の空間形成が進み,沿道の交流・にぎ わいがオリオン通りや泉町通りなど,



大手モール(富山市)

#### 駅から街なかへ来訪者を誘う開放的な街並みと高機能オフィスや病院、大学 等が建並ぶ風格ある景観が調和した近未来を想起させるスマートなエリア

●古くは奥州街道に沿って商人・職人町として発展。大工町は、宇都宮

:荒山神社周辺~JR 宇都宮駅西口周辺

(大工町・宮の橋地区)

JR宇都宮駅に近く交通利便性が高い立地ポテンシャルを生かした 地域経済をけん引する業務や医療,教育など多様で高次な都市機能 の集積が進んでいる。

# 状態

「目指すまちの

状態」実現に

向けた方針

目指すまちの

文教エリアにふさわしい落ち着いた街並み景観軸

文教地域や都心部に近く利便性の高い街なか居住エリ アの特性を活かし,落ち着いた街並み景観の形成

#### 街なか居住の促進(集合住宅中心)

文教施設が集積し都心部に近い

全され、街なか居住が進んでいる。

導入機能 空間づくり

LRTの交通利便性を享受できる便利で暮らしやすい住 環境の形成

## 中心商業地とシンボルエリアを結ぶ人・公共交通中心のにぎ わい軸

大通りを中心に人中心の居心地が良くゆとりある空間を形成 沿道のにぎわいがオリオン通りや泉町等に波及するにぎわい軸

#### 多様性・界隈性の醸成(池上交差点~本町交差点)

にぎわいや都市の多様性・界隈性が感じられる商業業務機

歓楽街・泉町の再牛によるエリアの魅力向上

するとともに、街なかの回遊性向上により の形成

#### 緑・憩い・風格ある街並み景観形成とにぎわい創出 (本町交差点(シンボルロード)~二荒山神社)

二荒山神社周辺のにぎわいや緑、憩いの空間が連続した落ち 着きと風格が感じられる街並み景観の形成 街なかにおけるにぎわい・交流機能の誘導

## 玄関口にふさわしい宇都宮の顔となる景観軸

■地域経済をけん引するオフィスビルや病院、大学等

城を築く際,付近に大工を住まわせたことに由来

●現在はオフィスビル等が整然と建ち並ぶエリア

JR宇都宮駅から都心部に来訪者を誘う大通りの玄関口にふさわし い風格と魅力を感じさせる宇都宮の顔となる街並みの形成

#### 広域交通の利便性を活かした高次機能の誘導

本社・支社機能等が集積し、地域経済をけん引する高機能オフィスビ ルの誘導等により、近未来を感じさせる都市空間の形成

# まちづくり

沿線全体で統一感がある魅力 あるまちづくりを進めていく上で の参考として取組イメージを示し ます。

都市やエリアの魅力・価値を高 められるよう. 各エリアにおいて. 地元が主体となってLRTを基軸 とした公共交通と一体となったま ちづくりに取り組んでいただくた めの環境整備など、都心部全体に 共通したまちづくりとして,「歩き たくなる」「おもてなし」「移動しや すい」の3つの視点から整理しま した。

## 【まちづくりの取組イメージ について】

これらの取組を進めるに当たって は、居心地が良く、回遊・滞在した くなるまちづくり(ウォーカブルシ ティ, スマートホスピタリティ\*)と 多様な交通手段の乗り換え環境 の整備など交通施策(スマートモ ビリティ\*)の一体的な展開など、 交通と一体となったまちづくりを トータルで検討・展開



## まちづくりの取組イメージ

宇都宮らしさを受け継ぎ、より高めるため、LRT沿線の交通結節点や停留場周辺などで地域資源を生かしたストーリー性のあるまちづくりを推進 都心部まちづくりの全体方針:地域資源を生かしたストー リー性のあるまちづくり

## ●ウォーカブルなまちづくり

LRTなど公共交通の充実による 人・交通の流れ、環境の変化等を見据 え,街なかを安全・安心で,人中心の 居心地が良く歩きたくなる. ゆとりあ る都市空間へと転換することで、まち の価値の向上など、沿線のみならず 地域全体への波及効果にもつながる ウォーカブルなまちづくりを推進



## ②ICTなど先進技術の活用や 脱炭素化を推進するまちづくり

都市や地域が抱える様々な課題を 解決するため、ICTなどの先進技術の 活用や脱炭素化の推進により,都市 機能やサービスの効率化・高度化や、 生活の利便性・快適性の向上など安 全・安心に暮らせるまちづくりを推進 する。



\*宇都宮市,大学,民間企業で構成される官 民連携プラッ トフォーム「Uスマート推進協議会 Iがスマートシティの実 現を推進するために令和2年3月に策定した「宇都宮ス マートシティモデル推進計画」に位置付けられた取組

## 

	取組万針1 取組のイメージ		概要	想定場所
	①魅力的な拠点形成	沿線への多様なまち の機能の充実	来訪者や居住者にとって魅力ある便利なまちの機能の充実(買い物や通院,住まい,福祉·子育て支援,学び,働く場(働き方の変化に対応したサテライトオフィス等),情報·交流,文化芸術など)	拠点 エリア
		イベント広場や滞留スペースの確保	再開発等と一体となったイベント広場や多様なニーズに対応したゆとりある滞留スペース(たまり空間)の確保	
	②居心地が良く, 歩きたくなる空間形成	公共空間を活かしたに ぎわい·交流空間づくり	二荒山神社周辺等における人・公共交通中心のゆとりある快適なシンボル空間づくり(トランジットモール化など) 道路や水辺空間(田川や釜川など)を活用した新たなまちの魅力とにぎわいづくり(オープンカフェなど) 乗換えや街なかの散策途中に一息つけるベンチやポケットパークの設置(キッチンカーの出店)	全ての エリア
		安全·安心な歩行空間や 自転車走行空間の整備	バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全·安心な歩行空間や自転車走行空間の確保(民地上の広場やオープンスペース, ゆとりある歩道など)	
		沿線の緑空間の創出や統一 感のある街並み景観づくり	潤いや安らぎの感じられる街なかの緑空間の創出や統一感のある居心地が良く調和の取れた街並み景観づくり(ヒートアイランド緩和や省エネルギーに資する街路樹や芝生広場による緑化, 建築物等の色彩誘導など)	
	③安全・安心な居住環境の整	備	老朽建物の機能更新·共同化やオープンスペースの確保, 災害時の避難体制の確保, 防災·減災への対応·対策による安全·安心な居住環境の整備	全ての エリア
	④駐車場の適正配置と街なか 自動車交通の円滑な誘導	周縁部への	来訪者や居住者が安心して快適に移動できるよう大通り沿線やフリンジ(街なか周縁部)における駐車場の適正配置 LRT導入を見据えた都心部へのマイカー流入抑制(公共交通や自転車の利活用促進, 自動車交通の円滑な誘導など)	全ての エリア

## 市民や国内 外の多様な来街者への「おもてなし」環境づくり(スマートホスピタリティ)

	10 XH 12 9+ T				
	取組方針Ⅱ 取組のイメージ		概要	想定場所	
	①観光等の情報発信	ICTを活用した効果的な情報発信・収集ツールの導入と魅力あるコンテンツづくり	5GやAI・センサー等のICT技術を活用しながら、来訪者の回遊性向上や消費喚起につながる観光・交通・商業等の情報を双方向でやり取りできる情報発信・収集ツールの導入、魅力あるコンテンツづくりなど	拠点 エリア	
		情報発信の拠点づくり	街なかの観光・文化など情報発信拠点(機能)の充実・強化(アンテナショップ, 餃子通りなどの観光情報など)		
		多国語表記の分かりや すい案内サインの設置		全ての エリア	
	②情報通信技術を 活用したおもてなし 環境づくり	キャッシュレス決済シ ステム導入の推進	スムーズでスピーディーに非接触・非対面の支払いが可能なキャッシュレス決済(クレジットカードやQRコード,電子マネー(交通系ICカード含む)等による決済)の導入推進	全ての エリア	
		街なかの店舗や公共交通 等の混雑状況の見える化	市民や来街者が混雑状況に応じて利用時間や移動手段を選択できるよう,街なかの店舗や公共交通等の混雑状況・ 混雑予測を事前に確認できるサービスの導入		
	③災害時にも対応できる自立 の普及促進	Z 分散型エネルギー		全ての エリア	
	<b>④まちづくりへのビッグデータ</b>	7 の活用		全ての エリア	

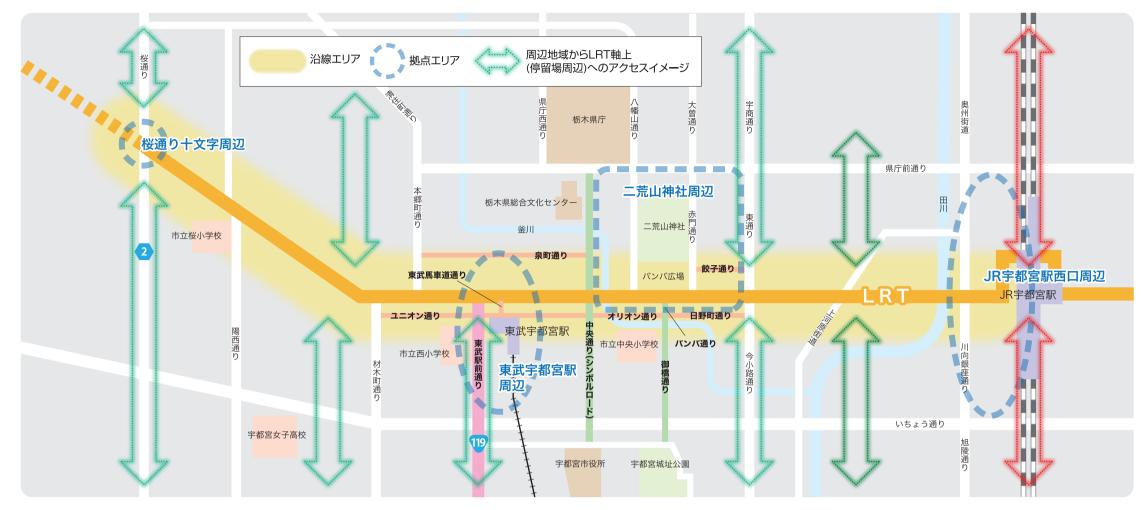
## ■ LRT軸から 商店街などの周辺を多様な手段でつなぐ、便利で「移動しやすい」環境づくり(スマートモビリティ)。

取組力針Ⅲ ────				
取組のイメージ	,	概要	想定場所	-
①多様な交通手段の円滑な野	乗 り換え環境の整備	公共交通や自転車などの多様な交通手段を円滑に乗り継ぎ・乗り換えできる環境整備(トランジットセンターなど)	拠点エリア	1
②公共交通の利用促進	宇都宮版「MaaS」の 導入 <b>*</b>	鉄道・LRT・バスなどの公共交通やシェアモビリティなど、多様な交通手段を用いた「移動」とまちなかにおける「サービスの利用」を、一つのアプリで検索・予約・決済できる宇都宮版「MaaS」を導入	全ての エリア	
	交通系ICカードの活用	様々な交通手段で使用できる交通系ICカードを活用した公共交通間の乗継割引など、運賃負担軽減策の導入による利便性向上		
③次世代モビリティの導入		LRT停留場と商店街等の行き来を支援する移動手段として、シェアサイクルや電動キックボード、自動運転バス等の歩行者と共存する次世代モビリティが利用できる環境整備	全ての エリア	

## **3**多様な主体が連携したにぎわいまちづくり(民間と行政の役割分担など)

関係者が適切な役割分担のもと、主体的かつ相互に密接に連携しながら、LRT等を 生かしたまちづく りに取り組むことで、更なるにぎわい創出や都市の魅力向上を官民協働で促進





【全てのエリア(沿線エリア及び拠点エリア)における主な取組のイメージ】

\*イメージ(写真等)は他都市の参考事例を掲載したもの

#### 居心地が良く,歩きたくなる空間形成 取組方針I-②

公共空間を活かしたにぎわい・交流空間づくり



乗り換えや街なかの散策途中に一息つける ベンチやポケットパークの設置

取組方針皿-③ 次世代モビリティの導入

自動運転バスや歩行者と共存する次世代モビリティなど

LRT停留場と商店街等の行き来を支援する移動手段として、シェアサイクルや電動キック

ボード, 自動運転バス等, 歩行者と共存する次世代モビリティが利用できる環境整備



二荒山神社周辺等における人・公共交通中 心のゆとりある快適なシンボル空間づくり



道路や水辺空間(田川や釜川など)を活 用した新たなまちの魅力とにぎ わいづ くり(オープンカフェなど)



沿線の街路樹や芝生広場など街なかの緑空 間の創出や統一感のある調和のとれた街並 み景観づくり

沿線の緑空間の創出や

統一感のある街並み景観づくり

#### 【拠点エリアにおける主な取組のイメージ】

## 取組方針1-① 魅力的な拠点形成

## 沿線への多様なまちの機能の充実

来訪者や居住者にとって魅力ある便利なまちの機能の充実 (買い物や病院,学び,住まい,働く場など)



## 取組方針II-① 観光等の情報発信

## ICTを活用した効果的な情報発信・収集ツール の導入と魅力あるコンテンツづくり

5GやAI・センサー等のICT技術を 活用し、観光・交通・商業等の情報を 双方向でやり取りできる情報発信・ 収集ツールの導入



通・観光・イベント 情報など

デジタルサイネージ(宇都宮市)

公共交通や自転車などの多様な交通手段を円滑に乗り継ぎ・ 乗り換えできる環境整備(トランジットセンターなど)



## 取組方針皿の 多様な交通手段の円滑な 乗り換え環境の整備

## 第 4 章

# ビジョンの実現

CHAPTER 4

「歩きたくなる」「おもてなし」 「移動しやすい」の3つの取組方針 に基づき、市民・事業者・行政が、 相互の信頼関係や協力関係のも と、お互いの特性や能力を発揮し ながら、それぞれの役割を担い合 い、連携・協力して主体的にまち づくりに取り組んでいくことで本 市都心部(中心市街地)の更なる 活性化を図っていきます。





## 市民・事業者・行政の役割

## 市民の役割

## まちをつくる(主に地権者,商店街など)

「まちづくりの主役」として、まちの魅力や価値を高めるため、事業者の協力を得ながら、沿線への多様なまちの機能の充実やゆとりある空間の確保など、主体的にまちづくりに参画

- ●民地上の広場,オープンスペース の確保等,にぎわい・憩い・ 交流空間創出に協力
- ●商店街や沿線住民が協力した 統一感のある街並み景観の 形成や緑化活動 など



#### まちを使う・育てる(主に居住者、就業者、学生など)

街なかの公共空間(道路·広場等)を積極的に活用し、新たなにぎわいや価値・魅力を創出。また、住む人・働く人・学ぶ人など、まちを使う市民の目線から、人を引きつける空間となる使い方を提案。

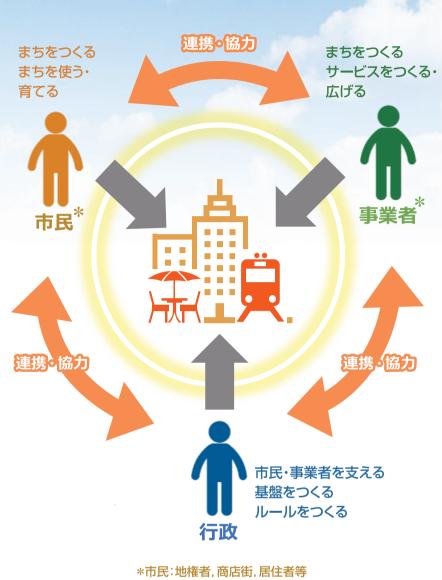
LRTやバスなどの公共交通を積極的に利用し、人中心の街なかで、健康増進にもつながるよう、積極的に歩いて暮らすライフスタイルを実践

- ●公共空間を活用したにぎわいづくりに参画
- ●魅力的で統一感ある街並み・ 景観づくりに参画 **● ★**●
- ●LRTやバスなどの 公共交通の積極的

利用 など

の





\*事業者:デベロッパー,生産・販売・サービス等

## 事業者の役割

#### まちをつくる(主にデベロッパーなど)

本市のまちづくりの担い手として、市民や行政と連携協力し、アイデアや技術を生かしながら、まちの魅力や価値を向上させる質の高い事業やプロジェクトを提案・実施

●地区の実情に応じた手法(再開発等)による、大通り沿線へのまちの機能導入や賑わい・憩い・交流空間の創出につながる事業等を積極的に提案・実施



### サービスをつくる・広げる(各種サービス事業者など)

街なかのにぎわい·交流を促すような, 快適な暮らしを支える多様で良質なサービスを提供

ICT化や脱炭素化の観点から、社会環境等の変化に対応した市民や行政の利便性を高める新たなサービスを提案・展開

- ●買い物や学び,住まい,働く場など多様で質の高いサービス 提供や新たな雇用の創出
- ●ICT等の新技術導入など新たなサービスの提案・創出など



## 市民・事業者を支える

市民・事業者等が行うまちづくりのサポートや環境づくりにより、まちづくりを促進

まちづくりを主体的に行っていくエリアマネジメント組織の設立支援 やまちづくりに必要な人材を発掘・育成

国・県・市, 大学等が連携して, 市民・事業者の活動の可能性を増やす 新たな制度の活用について研究

- ●民間開発事業への支援
- ●イベント開催や事業創出の支援
- ■エリア価値の向上に向けたエリアマネジメント組織の設立支援やまちづくりを担う人材育成 など

#### 基盤をつくる

街なかを人·公共交通中心の空間に転換するため、都心部やその周辺の交通円滑化などを検討・実施しながら、道路や駅前広場などの公共空間を、人が集い・憩える魅力的な空間に再整備

交通結節点等の拠点や沿線における基盤・機能配置を検討、 整備支援

- ●人・公共交通中心の空間の形成に向けた交通影響等を検証し、 街なか周縁部への駐車場の整備誘導
- ●交通結節点等の基盤整備
- ●脱炭素社会の構築に向けた取組の推進 など

#### ルールをつくる

歩行者が安心して歩けるような自動車等の適切な誘導, にぎわいを創出するイベントのための公共空間の占用の許可など, 街なかを活用しやすくするための規制の強化又は緩和を検討

- ●歩きやすい道路空間の形成に向けた自動車 等の適切な誘導
- ●駐車場適正配置の誘導・推進
- ●都市計画制度等の規制誘導手法を活用した まちの機能誘導や公共空間の利活用の促進 など

## まちづくりの進め方

都心部まちづくりは、中長期的な民間主体の取組が重要で、そのため、市民・事業者・行政等がビジョンを共有し、互いにまちづくりの機運を高めながら、民間開発事業やプロジェクトの具体化に向けた取組を推進していきます。

更に、**民間主体の開発事業等の検討**に合わせて、周辺エリアを含むまちづくりのルールを検討し、持続的なまちづくりにつなげていきます。

行政は、民間主体の魅力ある拠点形成に向けたまちづくりを支援します。また、民間主体の検討に合わせて、街なかを人中心のにぎわい・交流空間へと転換するため、LRT導入後の新たな交通ネットワークの構築を見据え、街なか周縁部への自動車交通の円滑な誘導や交通結節点等の基盤整備を検討・実施していきます。

#### 【ビジョンの共有】

地元商店街や沿線地権者,まちづくり団体等において,目指す将来像や地域課題を共有化

検討段階から整備後の利活用 等について意見交換

\*ビジョンは社会環境の変化等を踏まえ 必要に応じ見直しを検討

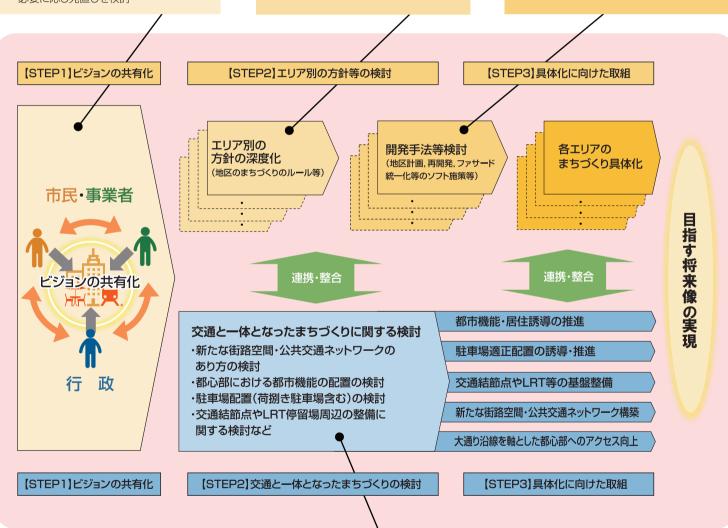
### 【エリア別の方針検討】

ビジョンや交通と一体となったまちづくりの検討と連携・整合し、エリアごとに導入機能や実現イメージなど、エリア別のまちづくり方針の検討を深度化(地区のまちづくりのルール等)

### 【エリア別の手法等検討】

事業化に向けた組織化(地元まちづくり協議会など)

街区や敷地単位の整備手法や建物景観(ファサード)の統一化、オープンカフェ等のソフト施策などエリア別の手法等を検討



## 【交通と一体となったまちづくりに関する検討】

ビジョンの具現化を図るため、ビジョンの共有化などを通した市民・事業者からの意見等を踏まえ、街なかの人中心のにぎわい・交流空間への転換に向け、交通影響等を踏まえながら、街なか周縁部への自動車交通の円滑な誘導など、居心地が良く、歩きやすい新たな街路空間の在り方について検討

また, ビジョン実現に向けた具体策として, 駐車場配置(荷さばき駐車場含む)や交通結節点・LRT停留場周辺の整備に関して検討

## 地域主体のまちづくりへの第1歩

#### 将来像の実現に向けて地域独自の取組やみんなで守るまちづくりのルールを決めて、エリアの価値を向上

みんなで考えた将来像を実現するために、自分たちが住むエリアが具体的にどんな空間になったら良いと感じるか考えてみま しょう。

「将来像を実現するためにどこに課題があるの?」「将来像を実現するためには何をすればいいの?」を、みんなで話し合ったり、いるいろな企業や行政と相談したりしながらまとめていきます。

### 将来像の実現に必要なまちづくりの視点

●まち歩きなどを通して,自分たちの地区やエリアの価値を高めるために必要なまちづくりの視点(ウォーカブル,緑化,景観,新技術活用,脱炭素,交通結節など)をみんなで考えてみましょう。



勉強と話し合いを 繰り返して 取組を具体化しよう

#### 将来像の実現に必要な取組やルールを考える

- ●地域独自の目標・方針, 理想のまちのイメージに向かって, まちづくりの手法やルールをまとめましょう。
- ●市民・事業者・行政の役割で取組を考えてみましょう。

アイデアをもらって どんどん取組を 充実させましょう

#### 色々な事業者さんや行政と協力して考える

●事業者さんは新しいまちづくりのアイデアをたくさん持っています。 内容を相談したり、行政ともまちづくりの考えを聞いたりしながら、質 の高いまちづくりを目指しましょう。

## ビジョン実現に向けた 地域主体の検討を支援します。

地域でまちづくりについて考えたり、取り組んだりしたいとき.

- ◎どうやって勉強したらいいかわからない
- ◎他のところではどんなことに取り組んでいるのだろう
- ○やってみたい取組はあるけど自分たちだけでできるのかな など

お困りの際は市にお気軽にお問合せく ださい。皆さんの活動をお手伝いします。

〈問合せ〉

都市整備部 NCC推進課 TEL.028-632-2564

## 理想のまちの実現に向けて活動しよう

#### 官民協働のまちづくりを実践

## 少しの変化から多様な主体が 協力して取り組む

- ●身近なところが「少し変わったね」という 実感を積み重ねることが、地域の方々の 関心を高め活動を継続する力になります。
- ●いろいろな企業や行政とも話し合いながら取り組むことで、様々な協力を得たり、制度を活用したり、事業者と協力したりと、宇都宮市がサポートしていきます。

#### 積極的な活動の発信

- ●活動の内容や成果は、定期的に,ブログやSNS・紙面などで、地域に発信しましょう。
- ●まちづくりに興味がある人に地域の魅力あるまちづくりの活動を知ってもらい,まちづくりの担い手や新たな人材を発掘しましょう。



#### 話し合いを重ねながら進める

- ●周りの地域の皆さんにも計画やルールを知ってもらい,一緒に守ってもらえるよう,話し合いや改善が大事です。
- ●できることから始め、計画、活動も内容を、必要に応じて見直し、状況の変化にも柔軟に対応しましょう。

17